

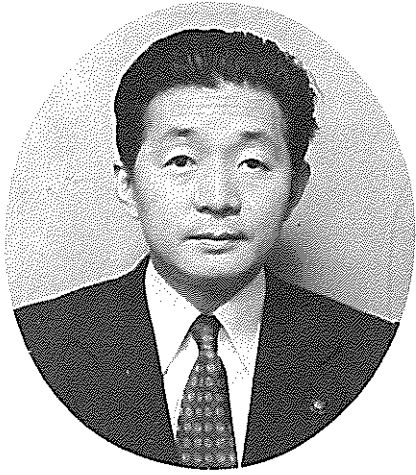
新築の住宅々々等々の透射山ノ口で撮影した太田川の堤防。十年前の堤防を覆う木々の影、この堤防が破壊したという（27日午前11時ごろ）

目 次

水害の記録・経過	1～15
水害の概況	2
気象状況	3
空もよう	4
市内の雨量	5
6.26水害新発田川・太田川	
破堤と浸水状況	6
地域ごとの被災状況	8
被害の状況	10
救助の実施状況	12
清掃対策	14
避難所の状況	15・16
応急対策の状況	17・18
6.26水害感謝状贈呈団体名簿	19

資 料

新発田川恒久的治水対策	1～3
新発田川放水路促進に関する経過	4
⑤ 陳情書	5・6



水害の記録 (6・26梅雨前線豪雨)

発刊にあたって

新発田市長

近 寅 彦

昭和53年6月25日から降り出した雨は、私達にとって悪夢のように忘れ得ぬこととなりました。その雨は27日になっても降りやまず、42年の8.28羽越水害をはるかに上回る最高 547ミリの総雨量を赤谷で記録し、道路や堤防を決壊し、家屋浸水、田畑冠水などの大きな被害を続出させました。

当市は水に弱い都市ですが、過去の状況から梅雨期の6月に発生した水害は珍しいもので、私達はこの豪雨によってあらためて社会経済の発展に関連した新しい災害の発生をもつよく認識させられました。

山が削られ裸となり、緑豊かな丘陵や山野が住宅地に変わり、遊水池機能を果していた沼沢や低平農地が埋め立てられてゆく傾向が中小河川の破堤はん濫に拍車をかけておるのです。

いわゆる活山治水事業(造林・砂防・洪水調節ダム)や河川改修、内水排除事業、さらにははん濫危険域の設定、洪水警報、水防避難システムの確立など豪雨災害を防止軽減する対策を急がねばなりません。

幸い聖籠町をはじめ関係住民の方々の深いご理解とご協力によって、新発田川の抜本的改修が着々と進められていることは、私達にとって誠にうれしく、感謝にたえません。

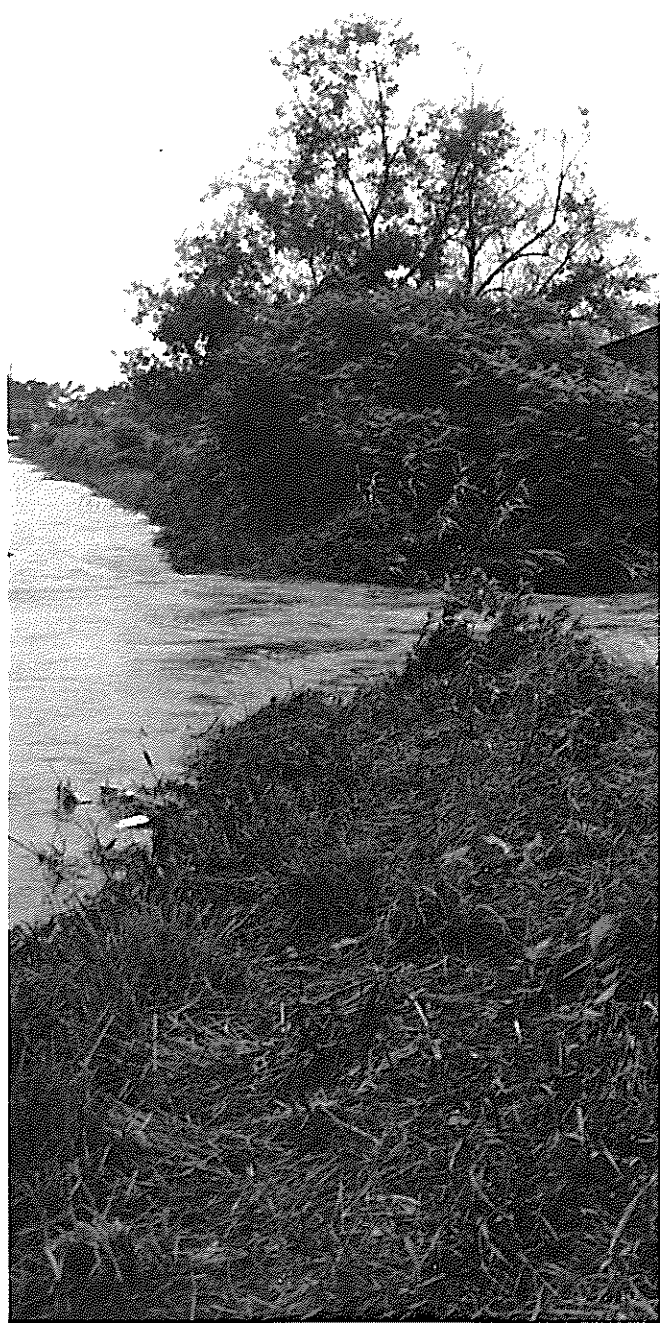
市民の全力を結集して放水路の一日でも早い完成に努めたいと念じております。

最後に、災害復旧にご援助いただいた国・県ならびに全国各地からのご好意に心から感謝を申し上げます。

昭和54年3月

水害記録・経過

日	時 間	経 過 及 び 内 容
25	午後 5 時	佐渡を除く県内に「大雨洪水注意報」発令 市は第1配備(準備体制)をとる
	6 時	雨が降り始める
	9時10分	「大雨洪水警報」発令 市は第2配備(警戒体制)をとる 市役所屋上雨量計で午後8時から9時までの1時間に15ミリを観測
	9時30分	江口第1頭首工の新発田川関係をはじめ他の門扉の閉鎖を要請
	9時40分	市役所職員による市内パトロール開始
	11時30分	豊町1丁目地内新発田川大堰(金升酒造裏) 付近床下浸水のため救助要請あり。状況調査のため市職員現地へ向う
	11時50分	大雨情報(第1号) 「梅雨前線は新潟県付近に停滞し、雨の最も多いところは中・下越地方に移った」
	26 午前 0 時	市役所屋上で降りはじめからの降雨量(6時間)37ミリ
	0時50分	庚申堰余水吐のゲート全開
26	5時20分	「大雨洪水警報」の更新
	6 時	大雨情報(第2号) 「午前5時から6時までの1時間に、市役所屋上で18ミリを観測。累計雨量100ミリ。加治川ダムの放水量333.7トン、内の倉ダムの放水量141.1トン」 市内各所で床下浸水発生
	6時30分	市職員諸準備にかかる。パトロール班出勤。 河川の増水進み、雨あし激しくなる。
	7 時	浦(芋卸川)、松岡(松岡川)から麻袋及び砂の要請。市車両班ショベルカーで大型ダンブへ山砂積み込み作業フル運転。
	7時35分	万才橋の堤防溢水。
	8 時	板山線東新町1丁目地内道路上10センチ浸水
	9時45分	焼峰登山道の用水路15メートル決壊。 地元で麻袋を積む。
	9時50分	消水谷から消水園にかけて浸水。 その他河川の決壊危険。
	10 時	綱木との郡界用水路決壊のため、市対策本部より麻袋100袋送る。 太田川・新発田川・赤沼川(佐々木地区)より麻袋・砂・杭木等の要請あり。 市の手持ち麻袋5,000袋ほぼ出しきる。 10,000袋緊急手配。
	10時20分	大雨情報(第3号) 「降り始めて今朝9時までに赤谷の降雨量162ミリ、夕方から夜にかけて多いところで今後100ミリ～150ミリの見込み。」



水害の概況

6月25日午後6時から降り続いた雨は、6月28日午前10時までに東北電力加治川発電所で783ミリ、赤谷出張所で547ミリ、新発田市役所で376ミリを記録した。

この量は、昭和41年の7.17水害、翌42年の8.28水害のときの降雨量を上回る集中豪雨であった。

このため、新発田市全域にわたって被害が発生し、滝谷地区をはじめ、大槻・曾根・上中沢・佐々木・鳥穴・砂山に相ついで避難準備、避難勧告をだしたほか、佐々木地区では救出困難となり、自衛隊の出動協力を得て救出。

新発田川・太田川は、消防団はじめ、水防関係者の懸命な水防活動にもかかわらず破堤、そして福島潟の溢水等によって、曾根・上中沢・佐々木・鳥穴・砂山は孤立状態となったが、水害対策本部でボート7隻を借上げ、避難者の救出に備える一方、巡回機動班を派遣して人命の安全等に努めた結果、死傷者や家屋の全壊・流出はなかった。

家屋の被害状況は、床上浸水257棟、床下浸水1,164棟であった。



気象状況

昭和五十三年六月二十六日の水害（六・二六水害）は、本州の太平洋沿岸に停滞していた梅雨前線が北上しながら活発となり、新潟県内の雨は二十五日夜からやや強まり、夜半から二十六日朝方にかけて佐渡と下越地方で大雨となった。

新潟気象台では二十五日午後五時、佐渡を除く県内に「大雨洪水注意報」を発令した。

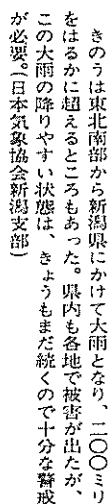
その後、同日午後九時十分、「大雨洪水警報」同十一時五十分、「大雨情報」と立て続けに気象情報が更新され雨も間断なく降り続き、記録的な集中豪雨となった。

水害の記録・経過

日	時 間	経 過 及 び 内 容
26	午前 10時30分	新発田川清水谷地内道路上に溢水、市建設課でロープ張る。
	11時10分	太田川の佐々木地内危険ヵ所発生のため、消防団員の出動要請あり（貫橋下流、佐々木駅裏、新発田川合流点付近）
	午後 0 時	「加治川水防警報」発令、午後0時までの市役所屋上の降雨量149ミリ。
	1 時	東新町3丁目地内中田川溢水のため、麻袋積み作業で住宅地浸水を防ぐ。 姫田川・田貝川・滝谷線等に被害発生、下石川地内より麻袋要請あり。
	2 時	佐々木保育園園児帰宅。
	3時30分	大雨情報（第4号） 「降りをはじめから午後3時までの赤谷の降雨量244ミリ（県内最高）」
	4時30分	福島潟内堤防決壊。
	5時30分	「大雨洪水警報」の更新。梅雨前線中部に停滞
	7 時	豊浦町大伝本村地内で給水管が流失、2戸断水。給水タンクで応急給水。（27日 午前10時30分復旧）
	7時30分	断続的に激しい雨が降りつづく。新発田川（佐々木地内ワゴードライ裏手）左岸浸還水決壊の危険。防止対策として技術員の派遣、浸水ヵ所に三ヵ月状に麻袋を積む。
	8時30分	大雨情報（第5号） 「中・下越・佐渡地方を中心に1時間に15ミリ前後の雨が降っている。赤谷で259ミリ（午後5時30分現在）」
	9 時	午後9時までの市役所屋上降雨量は152ミリ。雨足は強くなる。 通学等学校関係 通学路冠水のため、一部登校不能で自宅待機、石川小2人（小出川上流）、菅谷小7人（五斗蒔）川東小10人（本間新田） 他は平常始業。午後低学年あるいは全校一斉に職員や父兄の引卒で集団下校。 市街地中学校は平常授業。
	27 午前 0 時	万十郎川決壊の恐れあり、麻袋2,000袋・砂市対策本部より送る。
	0時35分	大雨情報（第6号） 「梅雨前線南下、赤谷総雨量282ミリ（県内最高）」
	2時10分	万十郎川へ麻袋1,000袋、砂、市対策本部より送る。
	4 時	雨足の強くなった26日午後9時から今朝4時までの1時間平均雨量は約7ミリ。降りはじめてからの市役所屋上総雨量204ミリ。



THE UNIVERSITY OF CHICAGO



◇大雨・洪水警報（二十六日午後五時三十分新潟地方気象台更新）
梅雨前線は新潟県中部に停滞しており前線に近いところでは一時間に一〇ミリを越す強い雨が降り続けている。二十七日は前線上を低気圧が進んでいくので、強い雨の降りやすい状態は、二十六日夜から二十七日といった続き、今後の雨量は多いところで一五〇ミリを越す見込み。このため河川は増水はしんらんする恐れがある。また低い土地では浸水の程度が大きくなり、ガケ崩れ、山崩れの起こる恐れがあるので厳重な警戒が必要。

		最	高	最	低	湿度(%)	
新長上佐	渦田	21.8	(25.2)	21.2	(18.6)	94	雨
	越渡	21.5	(26.0)	20.2	(18.3)		
	越渡	26.0	(26.2)	21.0	(17.1)	77	雨雨
	越渡	21.3	(23.9)	20.0	(17.3)	93	
札秋仙東	幌田	28.8	(22.9)	15.7	(13.0)	54	晴曇雨
	由台京	26.3	(24.5)	20.6	(16.3)	87	曇雨
		23.5	(23.7)	19.5	(16.7)	85	
		27.3	(26.6)	23.4	(19.7)	67	曇
長靜名金	野園	26.6	(26.4)	19.1	(17.1)	65	曇曇曇
	園	29.4	(26.8)	23.4	(20.0)	70	曇曇曇
	古屋沢	31.1	(27.6)	21.9	(19.5)	59	曇曇曇
	古屋沢	29.9	(26.3)	23.1	(18.7)	59	曇曇曇
大高鹿那兒	阪知	29.6	(28.3)	23.3	(20.7)	68	曇曇曇
	島	29.5	(27.1)	23.2	(20.6)	72	曇曇曇
	島	30.7	(27.9)	24.4	(21.6)	65	薄曇
	島	30.2	(30.1)	25.5	(25.1)	72	曇

A black and white photograph capturing a moment of joy amidst adversity. On the left, an elderly woman stands knee-deep in floodwater, holding a large, dark umbrella. She is dressed in a dark, sleeveless dress over a patterned long-sleeved shirt. On the right, another elderly woman leans out from a dark doorway of a wooden building, laughing heartily with her mouth open. She wears a light-colored, short-sleeved dress. Between them, on the wall of the building, is a small sign with the Japanese characters '牛中' (Ushijima) and '乳島' (Ryūjima). The scene is set in a narrow alleyway with wooden buildings, and the water reflects the surrounding structures.

水害記録・経過

日	時 間	経 過 及 び 内 容
27	午前 5時30分	松岡川村下決壊、国道・市道にも冠水、麻袋2,000袋緊急輸送。
	5時45分	「洪水警報」発令。
	6 時	佐々木地区一円、松浦地区一円に麻袋等、水防資材要請の電話。輸送車両、消防車のサイレンに誘導されて各地へ急行。米倉、中々山、川東(下羽津、虎丸)からも要請。佐々木地区各地の道路冠水。国道もいよいよ渋滞で水防資材の現地到着に遅れがでる。
	6時45分	大雨情報(第7号)「赤谷総雨量382ミリ」
	7 時	佐々木、松浦、加治、川東保育園、ひまわり学園休園。へき地保育所は山内(10時)鳥穴、荒川、滝谷、大槻(11時)虎丸(11時30分)園児帰宅。私立たから保育園(大字則清)午後2時園児帰宅。
	7時30分	新発田川いよいよ増水、舟入町地区で堤防から溢水。市街地も各地で溢水、県道網代浜線交通不能。佐々木地区各地で必死の麻袋積み。新発田川佐々木駅前付近溢水。太田川、丈右エ門橋から山の口までの堤防危険状態となる。
	7時40分	新発田川左岸(太田川合流地点200m上流)2ヵ所破堤。佐々木小、中学校臨時休校となる。 自宅待機 松浦小45人(法正橋、松岡) 住吉小13人(本福寺付近、御幸町その他) 菅谷小 7人(五斗時) 川東中10人(本間新田) 他は平常始業 午後は1時から3時の間に集団下校
	8 時	新発田市水害対策本部を市役所内に設置。市は全庁第3配置(非常体制)をとる。 避難所開設 市体育館、佐々木小学校体育館 米倉地区公民館 赤谷小学校冬季滝谷分校、滝谷大慶寺
	8時7分	御幸町2丁目(金原医院裏付近)四丁川氾濫による救助活動。
	8時10分	佐々木、曾根地区避難勧告。 曾根40世帯、佐々木239世帯
	8時30分	東塚ノ目市営住宅30戸、付近の小河川、農業用水の溢水で床下浸水。老人福祉電話で被災状況の確認と激励。その後職員、老人家庭奉仕員の家庭訪問。 ひとり暮らし老人、老人世帯5世帯床上の浸水に対して近所、町内、部落、ボランティアが手伝いに協力。
	8時45分	滝谷地区に避難勧告。対象63世帯221人 鳥穴、砂山対策本部から砂の運搬要請あり。
	8時50分	市営住宅新井田第2団地豪雨のため7戸雨もり

市内の雨量

雨 量

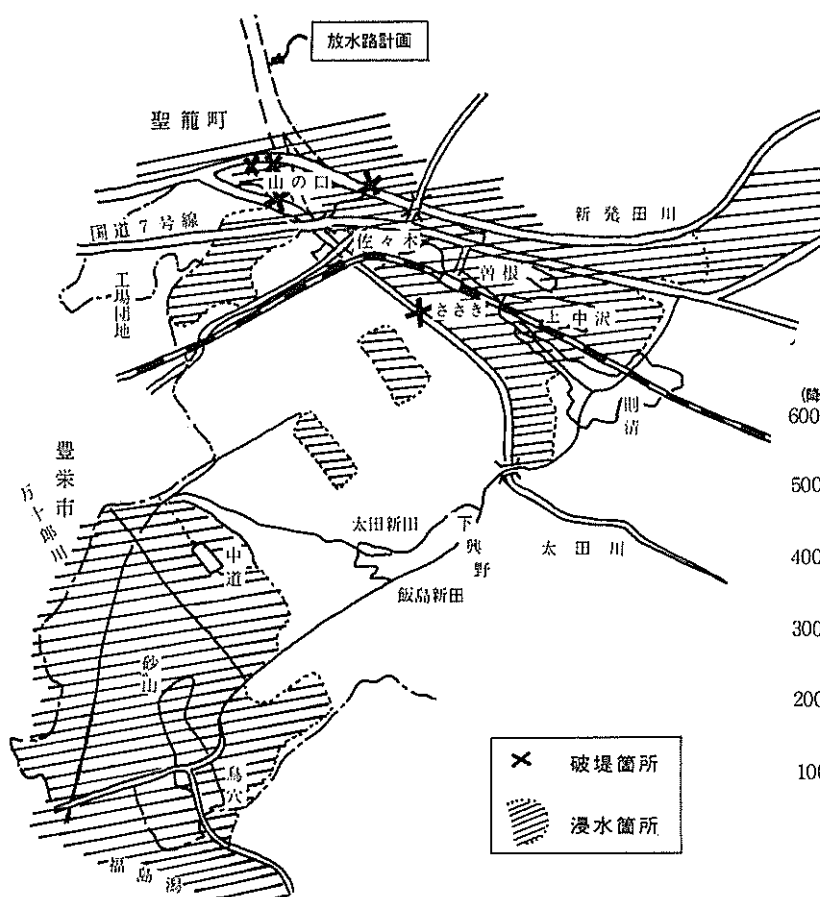
(単位: mm)

月日	時 間	市役所	赤 谷	加治川 ダム	二王子 壱	備 考
6 25	18:00~21:00	19.0	11.5	9.0	13.0	17:00 大雨洪水注意報発令
	21:00~24:00	18.0	37.5	26.0	26.0	21:10 大雨洪水警報発令
6 26	24:00~ 3:00	22.0	38.0	31.0	33.0	
	3:00~ 6:00	41.0	37.0	33.0	42.0	
	6:00~ 9:00	33.0	36.5	18.0	24.0	
	9:00~12:00	16.0	42.5	17.0	41.0	
	12:00~15:00	1.0	38.0	12.0	39.0	
	15:00~18:00	0.5	13.0	18.0	10.0	
	18:00~21:00	1.5	5.0	11.0	6.0	
6 27	21:00~24:00	21.0	19.0	18.0	15.0	
	24:00~ 3:00	23.0	45.0	45.0	27.0	
	3:00~ 6:00	35.0	51.0	41.0	32.0	
	6:00~ 9:00	42.0	55.0	57.0	32.0	8:00 新発田市水害対策本部設置
	9:00~12:00	8.0	25.0	18.0	18.0	10:30 太田川橋下流右岸10m破堤
	12:00~15:00	9.0	20.0	25.0	23.0	14:30 太田川くみあい飼料うら10m決壊
	15:00~18:00	12.0	30.0	26.0	32.0	
6 28	18:00~21:00	24.0	15.5	12.0	23.0	
	21:00~24:00	40.5	22.0	30.0	27.0	
	24:00~ 3:00	4.0	0.5	2.0	4.0	
	3:00~ 6:00	6.5	2.0	2.0	4.0	4:35 大雨警報解除
	6:00~ 9:00	1.0	3.0	7.0	9.0	
	9:00~12:00	1.5	0	5.0	3.0	11:50 6月27日 8:00にさかのぼり災害救助法適用
	12:00~15:00	3.5	0	4.0	4.0	13:00 洪水警報解除
	15:00~18:00	0	0	0	2.0	
	合 計	381.5	547.0	467.0	489.0	



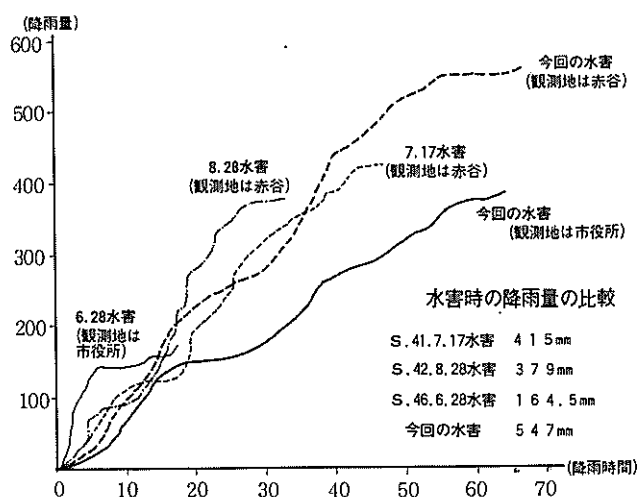


太田川破堤現場



6.26水害 新発田川、太田川 破堤と浸水状況

降り始めから
水害発生時までの降雨量(比較)



水害記録…経過

日	時 間	経 過 及 び 内 容
27	午前 9 時	大字曾根、佐々木地区に避難者収容誘導のため市マイクロバス2台、新潟交通バス1台派遣。佐々木地区太田川警戒及び調査。
	9時45分	豊栄市総務課に消防団の応援要請（10時5分出動）
	9時55分	上赤谷で幅約15メートルの土砂崩れあり。
	10 時	市内の住家床上浸水49世帯。
	10時30分	太田川右岸（太田川橋下流350メートル山の口地内）幅10メートル破堤。濁流、鶏舎を押し倒し集落へ。さらに佐々木地内へ押し寄せる。
		大雨情報（第8号） 「赤谷436ミリ、今後多い所で200ミリに達する見込み」
	11 時	麻袋、対策本部に18,400袋到着。 鳥穴、上中沢、飯島、則清、佐々木（山の口、貫橋くみあい飼料裏付近）下興野から至急資材輸送要請あいつぐ。運転員、作業員必死の積み込み運搬。（8,000袋の麻袋、大型中型小型ダンプ延46台）
	11時30分	大雨情報（第9号）
	11時59分	佐々木地区へ救助出動。
	午後 0時35分	山の口住民救出について自衛隊派遣を県本部に要請。自衛隊員80名出動
	0時40分	大雨情報（第10号）
	0時48分	佐々木地区へ救助出動ならびに広報住民誘導。
	1時30分	大雨情報（第11号）
	2 時	太田川右岸（くみあい飼料裏）決壊寸前のため、現地消防団長から応援要員 100名の要請あり。
	2時5分	県災害対策本部に対し、自衛隊の派遣を要請。
	2時30分	太田川右岸（くみあい飼料裏）幅10メートル破堤。山の口地内からの濁流と共に佐々木、中沢、曾根地区に浸水。国鉄白新線、国道7号線、県道豊栄中条線交通止め。
	2時55分	佐々木地区山の口部落避難完了。
	3 時	万十郎川（砂山地内）の溢水が砂山、鳥穴地区を襲う。鳥穴、砂山地区に避難勧告。
	3時20分	避難所（佐々木小学校体育館）内に救護所を開設。保健婦2名で避難者の健康調査と診療準備を開始。新発田市豊栄市北蒲原郡医師会々長に医師派遣を要請。
	3時40分	医師会新発田支部より、派遣医師救護所に到着。さっそく診療を開始、医師の治療と保健婦の指導を受けた人33人。患者は疲労高血圧、切傷、子どもの発熱など。



地域ごとの被災状況

町 名 (大字)	世帯 総数	浸 水 世 帯 数			町 名 (大字)	世帯 総数	浸 水 世 帯 数		
		床 上	床 下	計			床 上	床 下	計
新 富 町 1 丁 目	83				東 新 町 4 丁 目	49	1	10	11
新 富 町 2 丁 目	41		16	16	豊 町 1 丁 目	156	3	15	18
新 富 町 3 丁 目	93				豊 町 2 丁 目	357			
本 町 1 丁 目	305	1	51	52	島 潟	117		2	2
本 町 2 丁 目	183		3	3					
諏 訪 町 1 丁 目	245	1	6	7	大 崎	15		8	8
諏 訪 町 2 丁 目	96	1	6	7	六 日 町	6		2	2
諏 訪 町 3 丁 目	393	12	72	84	八 幡	60		4	4
大 柴 町 1 丁 目	233				小 友	22		2	2
大 柴 町 2 丁 目	290				浦 新 田	18		19	19
大 柴 町 3 丁 目	232				浦	76	4	33	37
大 柴 町 4 丁 目	275		100	100	法 正 橋	13		3	3
大 柴 町 5 丁 目	314				松 岡	141		30	30
大 柴 町 6 丁 目	73				荒 川	142		6	7
大 柴 町 7 丁 目	190				新 荒 川	10	1		
中 央 町 1 丁 目	187		7	7	見 城 2 区	18		9	9
中 央 町 2 丁 目	49				増 川	33		2	2
中 央 町 3 丁 目	232		5	5	中 居	14		1	1
中 央 町 4 丁 目	274		5	5					
中 央 町 5 丁 目	288		5	5	大 槻	109	9	20	29
大 手 町 3 丁 目	195		6	6					
大 手 町 5 丁 目	224	1	19	20	滝 谷	64		3	3
城 北 町 1 丁 目	395		50	50					
御 幸 町 1 丁 目	299		18	18	車 野	20		10	10
御 幸 町 2 丁 目	411	13	21	34	下 大 友	62		11	11
御 幸 町 3 丁 目	396		15	15					
御 幸 町 4 丁 目	38				上 寺 内	81		3	3
住 吉 町 1 丁 目	176		20	20	小 出	67		1	1
住 吉 町 2 丁 目	264	3			菅 谷	111		5	5
住 吉 町 3 丁 目	187	2	203	208	滝	33		5	5
住 吉 町 4 丁 目	228		10	10	下 石 川	75		4	4
住 吉 町 5 丁 目	127				蔵 光	88		1	1
西 園 町 1 丁 目	356	1	12	13	上 中 江	23		4	4
西 園 町 3 丁 目	554		28	28					
舟 入 町 1 丁 目	309	1			茗 荷 谷	30		7	7
舟 入 町 2 丁 目	224		6	7					
舟 入 町 3 丁 目	6				佐 々 木	335	137	68	205
緑 町 1 丁 目	248				曾 根	40	24	18	42
緑 町 2 丁 目	36		10	10	上 中 沢	57	15	42	57
緑 町 3 丁 目	361				日 渡	61		5	5
東 新 町 1 丁 目	139	1			鳥 穴	50	9	45	54
東 新 町 2 丁 目	222		54	55	砂 山	37	18	18	36

水害の記録・経過

日	時 間	経 過 及 び 内 容
27	午後 3時55分 4 時	大雨情報(第12号)「赤谷総雨量474ミリ」 新発田川右岸(佐々木橋下流)幅15メートルにわたり、破堤。(聖籠町地内)
	4時30分	現在の交通機関運行状況 運休 汽車 白新線、羽越本線 バス 新潟、松浦、天王、亀塚 聖籠、菅谷、加治、赤谷 川東、中条方面
	4時45分	医師会より救護所に対し、深夜に急患が発生した場合の体制について電話で指示。
5 時		避難者収容のため、佐々木地区へマイクロバス2台派遣。 二葉小学校わき水防土砂500m ³ 出しきる。 緊急輸送を依頼400m ³
	5時30分	大雨情報(第13号)
	6時35分	大雨情報(第14号)
	7時56分	水害警戒広報旧市内。
9 時		新発田川左岸(太田川合流地点200m上流)破堤。
	9時30分	大雨情報(第15号)
10 時		避難所における診療と指導終了。保健婦1名、救護所に当直。患者の介護にあたる。
	11時30分	現在、佐々木小学校避難者数36世帯101名。
	午前 0時30分	大雨情報(第16号)
	1時15分	太田川左岸(貫橋、太田川橋間)決壊寸前。 地元消防団出動。
	1時40分	太田川(佐々木地内貫橋)杭材輸送。
	3時40分	大雨情報(第17号)
	4時35分	「大雨雷雨注意報」発令。
	5時30分	茗荷谷地区簡易水道の導水管に土砂がつまり取水不能、さらに送水管も折損して給水不能、30戸断水。給水タンクで応急給水。 (午後0時30分平常給水に復旧)
	6時15分	太田川左岸(貫橋、太田川橋間)再び危険な状態となり、市対策本部に応援要請あり。
	6時50分	下新保から川東にぬける山通り線、山崩れあり。200m～300mの間隔で2ヵ所にわたり道路をふさぐ。
7 時		茗荷谷、佐々木、沢の口へ麻袋輸送。
	7時30分	救護所に医師会派遣医師到着し診療開始。 診療指導を受けた人13人。
8 時		保健婦、避難者以外の被災者宅へ電話による保健指導を行う。指導20件。
	8時10分	土木事務所で破堤ヵ所仮締切および、湛水排除について協議。



被害の状況

被害状況報告(最終版)による
(昭和53年7月25日現在資料)

区		分		人		数		摘		要		
A	人		死		者		人					
			行		方		不					
			重				傷					
			軽				傷					
		小		計								
B	住家		全		壊		棟		世		人	千円
			半		壊							
			流		失							
			一	部	破	損						
			床	上	浸	水	258	258	1,091	116,732		
	非住家		床	下	浸	水	1,164	1,164	4,656	131,663		
			公	共	建	物	3	—	—	51		
			住	家	付	属	建	物	334	—	—	23,024
			農	業	関	係	建	物	261	—	—	17,009
			商	業	関	係	建	物	92	—	—	2,826
			鉱	工	業	関	係	建	物	107	—	—
	小		計		2,219	—	—	—	293,924			
C	田		流		埋	11.6ha				29,850		
			冠		水	1,088.0				1,420		
	畑		流		埋	1.0				10,000		
			冠		水	77.2				580		
		山		林		原		野				
D	施 農 業 用 設	小		計		1,177.8				41,850		
			農	業	施	設	用	167	か所	161,500		
			林	業	施	設	用	8		11,650		
			水	産	業	用	施	設				
E	農 産 物 等	小		計		175				173,150		
			農	産	物					490,788		
			畜	産	物					30,000		
			水	産	物					250		
		林	産	物								
F	土 木 施 設	小		計						521,038		
			道		路	50		か所	52,200			
			橋		梁	1		橋	1,500			
			堤		防	2		か所	38m	4,000		
			砂		防							
			港		湾							
			海		岸							
			漁		港							
G	そ の 他	小		計						57,700		
			沈		没	隻						
			流		失	隻						
			破		損	隻						
			鉄	道	被	害	か所					
			通	信	施	設	回線					
			水	道	施	設	か所					
			文	教	施	設	か所					
その他		(うち公立文教施設)		か所								
		消	掃	施	設	か所						
		商	工	破	害				111,900			
		が	け	く	ず	れ						
その他		電		気	施	設						
		小		計								
被						害		総		額		1,199,562

水害記録・経過

日	時 間	経 過 及 び 内 容
28	午前 8時20分	鳥穴、砂山地区にボート5隻、佐々木地区に2隻を配置。
	9 時	市対策本部で破堤カ所仮締切に対して消防団の出動を要請。
	11 時	太田川右岸(山の口破堤カ所)の仮締切資材輸送。雨は小降りとなる。
	11時40分	「大雨雷雨注意報」解除。
	11時50分	6月27日午前8時にさかのぼり、災害救助法の適用される。
	午後 0時30分	中々山地区簡易水道の取水管に土砂がつまり、取水不能となる。また、道路陥没のため排水管が折損して漏水。(午後3時30分仮復旧)
	0時50分	太田川上中沢地区破堤カ所締切作業に市対策本部より出発。山の口破堤カ所は、湛水地区から川へ流れ出し始める。 大雨情報(第18号)
	1 時	救護所で医師の診療開始。高血圧の患者が多い。
	1時20分	避難者収容のため、鳥穴、砂山地区へ市マイクロバス1台派遣。
	1時30分	医師会々長、事務長救護所に来所。医薬品医療器具の補充、カルテの作成等診療体制について指示。 消防団110名、土木事務所派遣作業員30名計140名で太田川右岸(くみあい飼料裏)破堤カ所の仮締切作業に入る。トラックつき場から麻袋を運ぶ列200メートルにおよぶ。深さ3メートル、長さ10メートル。 杭打ちも難しい。仮さん橋も架ける。麻袋の投入3,000袋、ようやく水面に出る。ぬれ壺を壁にして作業を進める。重い麻袋、長い距離、キツイ仕事も一刻も早い復旧へと黙々と続く。
	3 時	資材の追加要請あり。宮古木、下羽津、下石川からの麻袋要請。 市役所屋上総雨量383ミリ。
	2時40分	太田川右岸(くみあい飼料裏)破堤カ所、仮締切完了。
	7 時	救護所で医師診療開始。診療、指導をうけた人25人(診療午後9時15分まで)保健婦1名救護所に当直、患者の介護にあたる。
	9時30分	資材の補充、残数確認。 通学等学校関係 佐々木小、中学校、松浦小学校臨時休校 自宅待機……東中学校34人(荒川地区) 他は平常授業、荒川小学校給食中止。



救助の実施状況

実支出額

申請額

区 分	員 数	単 価 円	金 額 円	単 価 円	基 準 額 円	備 考
1 災 害 救 助 費						
(1) 収容施設供与費	延 524人	55	28,660	65	28,660	
避難所設置費	延 524人	55	28,660	65	28,660	
仮設住宅設置費						
(2)炊出しその他食品費	延 4,472人	895	1,333,503	500	745,500	
炊 出 費	延 4,472人	895	1,333,503	500	745,500	
その他食品供与費						
(3)飲料水供与費						
(4)被服等給与費	258世帯	9,413	2,428,538		1,000,159	
全壊流失分						
半壊、床上浸水分	258世帯	9,413	2,428,538		1,000,159	
(5)敷物給与費						
(6)医療及び助産						
医 療 費						
助 産 費						
(7)救 出 費	118	267	31,500	267	31,500	
(8)住宅応急修理費						
(9)生業資金貸与費						
(10)学用品給与費	2		1,707		1,707	
(イ)教科書	2		1,707		1,707	
小 学 校	1	208	208		208	
中 学 校	1	1,499	1,499		1,499	
(ロ)その他の学用品						
小 学 校						
中 学 校						
(11)埋 葬 費						
大 人						
小 人						
(12)死体搜索費						
(13)死体処理費						
処 理 料						
一時保存料						
検 案 料						
(14)障害物除去費						
(15)輸 送 費			170,870		170,870	
(16)人 夫 賃			6,120		6,120	
(17)実費弁償費						
2 事 務 費			743,128		99,226	
合 計			4,744,026		2,083,742	

水害記録・経過

日	時 間	経 過 及 び 内 容
28	午後 9時30分	通園等保育園関係 佐々木、松浦、川東、ひまわり学園休園 園庭に冠水した、消水谷、南、住吉、 川東保育園、私立ルンビニ保育園、菅谷、 板山保育所に消毒剤配布。鳥穴保育所が 地区対策本部となり休園。
29	午前 8時30分	市内全域で土木施設被害調査始まる。 米倉地区公民館、滝谷大慶寺、赤谷小学校 冬期滝谷分校、市体育館の避難所28日で閉 鎖。
9	時	土木事務所と太田川調査（丈右衛門橋から 下流） 山の口地内の破堤、仮締切等検討 湛水排除の方法、ポンプの要請 国道7号線歩道橋付近、昨夜より30cmくらい減水 9時現在の交通不能箇所 県道新発田網代線、国道290号線法正 橋付近、豊栄中条線追分3又路
11 午後 1時	時	市対策本部へ麻袋10,000袋到着。 湛水作業にポンプ8台、発電機2台送る。 山の口破堤ヵ所の締切準備、地元住民独力 で始める、舟の準備、30日の仮締切決定を本 部を通じ消防団へ要請。 1時現在の交通不能箇所 新発田、新津線 京ヶ瀬村前山地内 豊栄、中条線 新発田佐々木地内 京ヶ瀬村関谷地内 笹神村高田地内 新発田市砂山地内 国道290号線 新発田市法正橋地内 (松岡川橋橋台流下) 新発田、津川線 三川村新谷地内 水原町稗川原地内
2	時	杭木、麻袋を国道7号線太田川橋詰へ送る 山の口の湛水排除をポンプ3台で開始。 1時間に30cm水位低下。家屋の土台あら われる。
5	時	佐々木橋(新発田川)左岸上流、農協倉庫脇 もポンプ3台、発電機1台で湛水排除を開始
7	時	救護所で医師診療開始。休日夜間救急診療 所の看護婦も今日から救護所に。
7時30分		山の口地内の湛水排除完了。 ポンプ3台を佐々木橋詰へ移し、計6台の ポンプで夜を徹しての湛水排除。
9	時	土砂の補充。車両の点検。 29日現在の公共土木施設の被害まとめる。 診療終了。診療、指導を受けた者26人。高血 圧と便秘の患者が大部分。保健婦1名当直。 今後に備えて医薬品、医療器具を補充。 老人の患者から「昨夜はよく眠れたので今 日は気分がよい」と礼をいわれた。





清掃対策

新発田川附近ゴミステーションのゴミは、ほとんど流失前に収集、被災地域のゴミについては、地区対策本部と収集計画をたて、収集可能地区より、市有車全車両と一部民間トラックを借り上げ全部収集した。収集したゴミは約500トン、焼却場と埋め立てで処理した。



水害記録・経過

避難所

避難所における地域別避難者数
(7月2日現在)

地区	6/27	28	29	30	7/1	2	計
佐々木	69 (31)	46 (19)	5 (4)	1 (1)	—	—	121 (55)
曾根	6 (2)	6 (2)	1 (1)	1 (1)	—	—	14 (6)
上中沢	6 (2)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	—	—	9 (5)
鳥穴	14 (4)	23 (9)	23 (9)	23 (9)	—	—	83 (31)
砂山	3 (1)	36 (10)	31 (15)	30 (14)	26 (16)	22 (14)	148 (70)
計	98 (40)	112 (41)	61 (30)	56 (26)	26 (16)	22 (14)	375 (167)

※ ()内は世帯数 (単位:人)

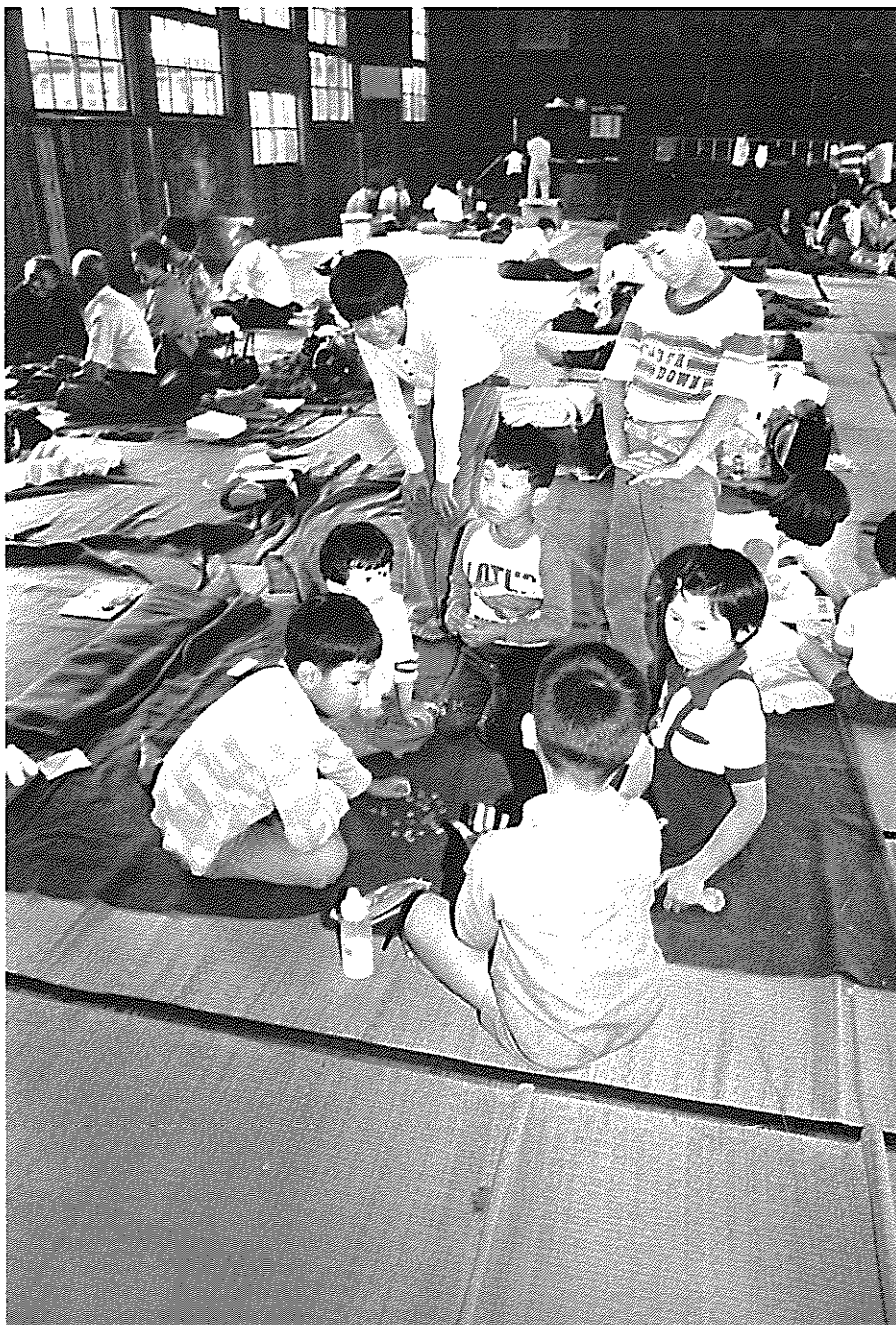
日	時間	経過及び内容
29	午後9時	通学等学校関係 佐々木小学校臨時休校 佐々木中学校60%登校 授業は午前中で打ち切り。他は平常授業。 松浦小学校は迂回路で通学。 通園等保育園関係 佐々木保育園早朝から消毒、清掃。その後、保母全員で園児の家庭訪問。
30	午前7時40分	佐々木小学校臨時休校。
	8時	国道7号線交通規制解除。
	8時30分	太田川右岸(山の口地内)破堤カ所仮締切作業のため、現地へ市対策本部より出発。
	9時	締切作業始まる。杭打、麻袋運び、堤防からと舟での2面作戦。消防団員300名、現地指導員等43名、総勢340名の人海戦術である。
	9時40分	麻袋の追加要請。300袋急送。
	10時	第1頭首工の門扉を開くことについて関係土地改良区と協議(明日、昼まで閉じることにした)
	10時30分	鳥穴保育所裏道路浸水なし。30cm水位下がる
	11時	太田川右岸、締切作業のための杭木30本、麻袋2,000袋、砂40m ³ の追加。 茗荷谷、下新保、土砂崩壊取り除き実施。 二王子ダイヤ工芸工場内、油流出。消防署現場へ急行し、中和剤散布。
	午後1時	保健婦全員、佐々木、曾根、上中沢地区被災家庭へ健康調査と保健指導に向う。
	4時	太田川右岸(山の口附近)破堤カ所延長20メートル余も、約10,000袋の麻袋により仮締切完了。
	5時30分	「雷雨大雨注意報」発令。
	7時	救護所で医師診療開始。高血圧と便秘の老人がほとんど。明日、帰宅する鳥穴方面の患者に薬剤2日分だす。
	7時15分	「雷雨大雨注意報」解除。
	8時	救護所診療終了。診療、指導を受けた人24人
7/1	午前10時	県議会災害対策特別委員来庁、現地を視察。
	午後0時10分	鳥穴、砂山道路浸水なし。(鳥穴裏手深さ20cm湛水)福島潟周辺まだ冠水中。 鳥穴、砂山部落、床上浸水家屋なくなる。
	1時	国会議員来庁、現地を視察。 通学等学校関係 佐々木小学校臨時休校 通園等保育園関係 佐々木保育園保育再開
7/3		6・26水害対策特別委員会設置(市議会)



の 状 況

炊き出し数(7月2日現在)
(単位：食)

場 所	日	避難 所 (佐々木小学校)	大字 佐々木	鳥 穴・ 砂山	諏訪町三丁目 大栄町七丁目	計
6/27	昼	100	—	—	—	100
	夕	110	—	—	20	130
28	朝	115	450	—	20	585
	昼	110	500	—	0	610
29	夕	130	520	—	0	650
	朝	125	340	—	—	465
30	昼	125	300	25	—	450
	夕	80	200	—	—	280
7/1	朝	70	150	30	—	250
	昼	70	230	30	—	330
2	夕	60	190	30	—	280
	朝	30	—	30	—	60
7/1	昼	40	—	30	—	70
	夕	28	—	30	—	58
2	朝	25	—	30	—	55
	昼	21	—	30	—	51
7/2	夕	18	—	30	—	48
	計	1,257	2,880	295	40	4,472



応急対策の状況

概 況

6月25日午後6時頃から降り出した雨は27日までに、赤谷では全国で2番目の520ミリを記録し、市役所の雨量計でも27日午後8時現在312ミリに達し、市内各所に被害をもたらした。

市では、ただちに県に対し、被害状況や避難人員等を報告するとともに、災害救助法の適用を申請した。

6月27日午前8時水害対策本部を設置し関係機関へ連絡するとともに情報の収集、応急資材の調達・被害状況の把握・市民への広報救助用ボートの配備・避難所の開設等諸措置を次々に講じ災害を最小限に食い止めるよう鋭意努力した。

一方佐々木地区における救助活動を推進するため27日午後2時5分、県消防防災課を通じ地元自衛隊の出動を要請した。

次第に災害規模は拡大され、28日午前11時50分6月27日午前8時にさかのぼり災害救助法の適用が決定し、救助事務は、法のもとにすすめられることになった。

救助対策

市は対策本部を設置すると同時に6月27日午前8時に市体育館・佐々木小学校体育館・米倉地区公民館・赤谷小学校滝谷分校・滝谷大慶寺を避難所に指定し被災者の救出、救助を実施したほか、炊きだし、被服、寝具等生活必需品の給与等を実施し救助の万全を期した。

民生対策

災害発生と同時に生活保護世帯の状況を調査し、単身老人世帯等については職員を派遣しタタミ等の積上げを行い知人宅への避難を完了した。低所得世帯に対しては社協等関係機関と連絡を取り、小口資金及び世帯更生資金の借入れ指導を実施した。

衛生対策

▷浸水家屋の防疫活動

床上・床下浸水した家屋には、病虫害発生防止のため水の引いた地域から一斉に、防疫活動を実施した。

▷石灰とクレゾール石けん液を配布

浸水した世帯、約1,440世帯に石灰を配布、680袋の散布を完了するとともに、床上浸水世帯にクレゾール石けん液による消毒を実施した。

▷防除体制

浸水地域、約1,440世帯に機械による薬剤散布を実施した。防

除体制として7班の防除班を編成し、連絡区長を通じて実施した。

▷浸水地域の公害防止

浸水と同時に、事業所に公害防止を呼びかけるとともに、一般事業所から浸水によって流出した油類が、各地で多量にみられ、農作物への影響が心配された。

このため、油類、その他の事業系の物質で汚濁の恐れのある施設については、適切な管理を呼びかけた。

商工業対策

商工業者で被害対象の商店については、市内金融機関及び国民金融公庫で次のような特別融資制度を設けた。

融資限度額は、市内各金融機関は1,000万円以内、国民金融公庫は、普通貸付限度額1,200万円以内、既に借入額がある場合は限度額に400万円を加えた額から既借入れ額を差し引いた額以内。

また、利率は、年6.0%から7.5%で便宜を図った。

その他、現行制度を中心に十分相談に応じた。

農林対策

被災農家に対し自作農維持資金及び市農業経営改善資金の貸付けを指導した。また冠水水田の減収防止のため、特に病虫害防除の徹底を図った。

土木対策

新発田川・太田川・万十郎川・芋卸川・松岡川・中田川・赤沼川・後川支川・綱木川支川・北ノ入川・板山川・乙見江・宮田川・姫田川・不又川・福島潟・真木川支川・荒川川・大関川・中野川・新井田川・小出川・緋雉川・沢口川・蟹川の破堤、決壊に備え麻袋・長木・砂等の水防資材を現地に急送し、消防団員の出動、地域住民の応援を得て水防活動を実施した。

また、市街地においては危険防止のため縄張等を実施した。

そ の 他

水害住宅復旧資金の融資制度を創設するとともに、市税及び国税の減免、徴収猶予、国民年金保険料の免除、水道料金の減免の措置を実施した。

このほか、水害特集号、広報しばた水害特集合併号の全戸配布を行うとともに、国・県の援助を要請した。

6・26水害感謝状贈呈団体名簿

団 体 名	功 勞 内 容
陸上自衛隊新発田駐とん地 新発田電報電話局	救助・救出活動に貢献 避難所及び地区対策本部の臨時・仮設 電話の設置
新発田市消防団	水防及び堤防締切に貢献
(株) 高 沢 組	水防従事者及び物資の輸送に貢献
(株) 石 井 組	水防従事者及び物資の輸送に貢献
いじみの 荘	水防活動に協力
三ノ町防護団	水防活動に貢献
上鉄・旭町防護団	水防活動に貢献
東 町 防 護 団	水防活動に貢献
住吉町1丁目防護団	水防活動に貢献
住吉町3区町内会防護団	水防活動に貢献
大栄町6丁目6番街区住民一同	水防活動に貢献
東新町2丁目町内会	水防活動に貢献
東新町3丁目町内会	水防活動に貢献
大 崎 部 落	水防活動に貢献
八 幡 部 落	水防活動に貢献
小 友 部 落	水防活動に貢献
浦 部 落	水防活動に貢献
浦 新 田 部 落	水防活動に貢献
松 岡 部 落	水防活動に貢献
荒 川 部 落	水防活動に貢献
大 槻 部 落	水防活動に貢献
中 々 山 部 落	水防活動に貢献
東 姫 田 部 落	水防活動に貢献
西 姫 田 部 落	水防活動に貢献
下 羽 津 部 落	水防活動に貢献
虎 丸 部 落	水防活動に貢献
古 寺 部 落	水防活動に貢献
下 新 保 部 落	水防活動に貢献
茗 荷 谷 部 落	水防活動に貢献
佐 々 木 部 落	水防活動に貢献
曾 根 部 落	水防活動に貢献
上 中 沢 部 落	水防活動に貢献
日 渡 部 落	水防活動に貢献
則 清 部 落	水防活動に貢献
則 清 新 田 部 落	水防活動に貢献
西 宮 内 部 落	水防活動に貢献
北 薮ノ口部 落	水防活動に貢献
西 薮ノ口部 落	水防活動に貢献
飯 島 甲 部 落	水防活動に貢献
飯 島 乙 部 落	水防活動に貢献
下 興 野 部 落	水防活動に貢献
飯 島 新 田 部 落	水防活動に貢献
太 田 新 田 部 落	水防活動に貢献
鳥 穴・砂山部 落	水防活動に貢献
滝 谷 部 落	水防活動に貢献

資料

新発田川恒久的治水対策



新発田川の恒久的治水対策としては、下流から

新発田川放水路

現新発田川改修

新発田川バイパス

の三つの柱からなっており、その計画は福島潟とともに昭和41・42年の羽越水害を契機に、新井郷川水系の抜本的治水対策の方針が決定し、このうち新発田川太田川流域の改修計画として、その合流点附近から新潟東港へ放水路で洪水を流下させる方法が、新井郷川中小河川改修事業

の一環として昭和44年度から事業計画が県営事業として認可されたものである。その後、関係省庁との協議を経て県から放水路計画が本市ならびに聖籠町に提示され地元説明会が開催された。

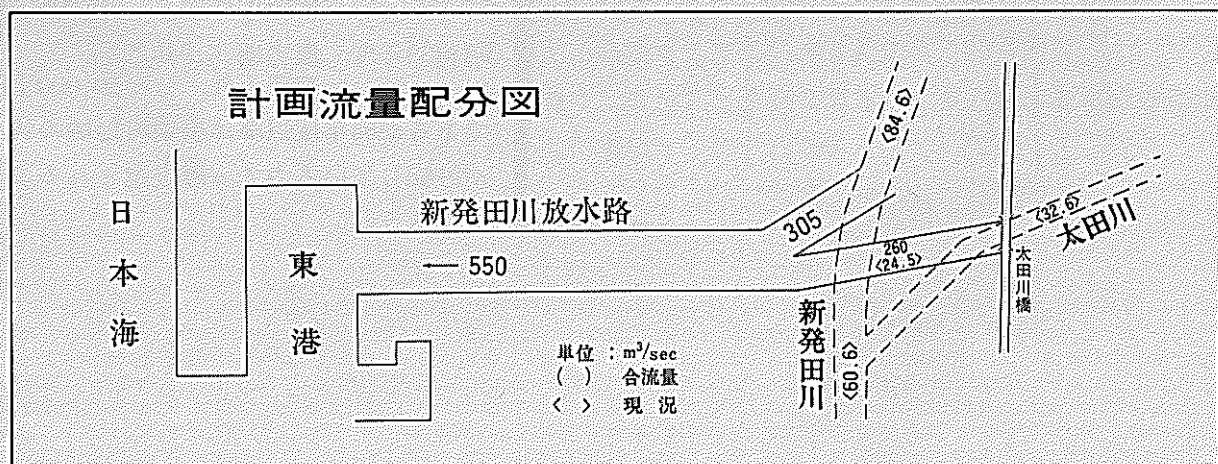
1. 新発田川放水路

(1) 水利計画

計画高水流量	550 m ³ /sec
流域面積	76.0 km ²
確率年	1 / 50年
計画日雨量	山地 353mm 平地 300mm

(2) 河道計画

改修延長	3,400m
河巾（流路巾）	73.0m
縦断勾配	水面 1 / 5,838 ~ 1 / 1,754 河床 1 / 2,500 ~ 1 / 2,000
堤防天端巾	4.00m
余裕高	1.5 ~ 1.0m



聖籠町関係地域では、放水路によって

1. 地下水位が低下し、農作物に影響を与える
2. 部落が分断される
3. 潮風によって農作物に被害を与える
4. 農地の減少によって営農計画がたたない、今後の生活に不安がある。
5. 農林省改修事業の負担金の肩替り
6. 代替地が求め難い

等の問題が生ずるため、放水路には賛同しかねるとして、今後一切話し合いには応じられないといった状況が53年の6.26水害時まで続いた。一方、上流の佐々木地区では、その後も46年の6.28水害や48年の6.24水害等によって常に水害の恐怖にさらされているため、一刻も早く放水路の建設を要望するとして、48年度に地形測量を実施し、49年度に丈量測量（一筆測量）を実施し用地買収の早期着手を訴えてきた。市もこれにこたえて、49年7月1日付で新発田川分流対策室を設置し関係機関と地元の窓口を設けた。県も地元の要望に応え上流の佐々木地区からも用地買収に着手する方針を決め、51年度から着手したものである。

また、52年度には聖籠町二本松地区の同意を得て地形測量を実

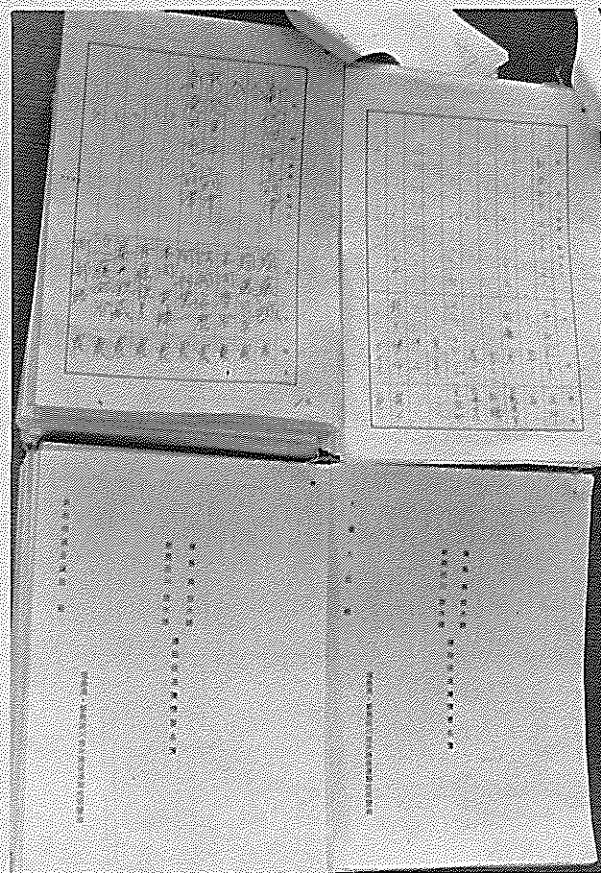
施することができた。

さらに、53年の6.26水害を契機に福島潟新発田川放水路促進期成同盟会と関係5市町村が一体となって放水路促進の署名運動を行って38,000余名の署名を携えて建設大臣、大蔵大臣、県知事、県議会議長に陳情。聖籠町の関係地域においても放水路の必要性について認識が深まり、現在、別行・大夫興野の2部落で説明会が開かれ、杉谷地部落も役員の交替を待って説明会が開催される運びとなっている。

佐々木地区の用地買収は

昭和51年度	農地	3,144m ²	20,000千円
昭和52年度	農地	4,598m ²	
	家屋	1件	30,000千円
昭和53年度	農宅地	5,848.72m ²	
	家屋	1件	50,000千円

であるが54年度以降は聖籠町地域の状況が好転しているので一層促進されることになる。



2. 新発田川上流の対策

放水路上流の計画については、46年6.28水害によって市街地は甚大な浸水被害を受けたため、市の要請によって47年に県が主体となって調査検討の結果、放水路上流の改修、新発田川バイパス計画、中田川合流点付近の局部改修計画が策定され、局部改修事業は48年度から実施に入っている。

河川配置計画

項 目	第 1 案(現川改修案)	第 2 案(御幸バイパス案)
河川配置 模 式 図	改修延長：新発田川L=8.9km 中田川L=6.53km 太田川L=6.6km 	改修延長：新発田川L=8.89km 中田川L=6.5km 太田川L=6.6km
河川配置 計 画	現況河川を改修するものである。	新発田川の羽越本線上流域からの流量40%を市街地の南側に新水路(御幸バイパス)を作ってウ回させる。 市街地の流量は都市下水路(新発田市)で流す。
項 目	第 3 案(バイパス案)	第 4 案(太田川分流案)
河川配置 模 式 図	改修延長：新発田川L=6.24km 中田川L=6.5km 新発田川捷水路L=1.7km 太田川L=6.6km 	改修延長：新発田川L=8.9km 中田川L=7.95km 太田川L=9.2km
河川配置 計 画	新発田川の羽越本線上流域からの流量40%を市街化区域の外側(白新線沿)に新水路(バイパス)を開削し富塚付近で新発田川へ合流させる。	新発田川最上流域約2.0km ² を山王附近で太田川へ分水する。

新発田川バイパスは4つの案があり、市は議会や関係機関の意見をとりまてめ県に対して第3案を希望する旨を回答。

この事業は、放水路と密接な関連があるため、放水路の進捗状況に合わせて実施することになる。

新発田川放水路促進に関する経過

年月日	行 事・内 容	陳 情 先 等	参 加 者
47. 9. 2	陳 情	県 土 木 部 長 他	市長・議会特別委員・県議
9. 2	要 請	聖 籠 村 長 他	同 上
11. 8	陳 情	県議会建設企業委員会	市 長 他
48. 1. 5	陳 情	県 土 木 部 長 他	市 長 他
1.16	陳 情	県 河 川 課 長	市 長 他
1.16	陳 情	2 区選出国會議員	市 長 他
11.12	合 同 説 明 会		市長、議長議会特別委員会関係市町村長、 国県會議員
49. 7. 1	新発田川分流対策室		設 置
8.16	佐々木地区説明会		地元佐々木区長、市長、県土木事務所長他
8.24	代 表 者 会 議		市長、関係市町村長、議會議員他
50. 7. 9	要 請	聖 籠 村	市 長 他
11.27	陳 情	県 河 川 課 長 他	市 長 他
12.13	陳 情	県 河 川 課 長 他	議会特別委員会
51. 1.13	要 請	聖 籠 村	市 長 他
2. 2	新 発 田 聖 籠 両 市 村 議 会 合 同 会 議		市長、村長、議会、土木所長他
3.30	新 発 田 聖 籠 両 市 村 議 会 合 同 会 議		市長、町長、議会、土木所長他
7. 9	要 請	聖 籠 村	市 長 他
7.17	陳 情	県 河 川 課	議会特別委員会
7.17	要 請	市内農協連絡協議会	市長他
7.26	要 請	聖 籠 村 議 会	議会特別委員会
8. 5	陳 情	建設省及び2区 選 出 国 会 議 員	市長、村長、両市村議会
8.30	代 表 者 会 議		関係5市町村長、議会、県知事他地元国県 會議員
9. 3	陳 情		市長関係市町村長他
11. 4	陳 情	建設省地元国會議員	市長、関係市町村長他
52. 5. 4	要 請	聖籠村長・議長他	市長、議長、特別委員会
7.29	陳 情	建設省・大蔵省	市長、関係市町村長他
9. 8	代 表 者 会 議		市長、関係市町村長、関係市町村議会他
11. 4	陳 情	県 知 事 他	市長、関係市町村長他
11.16	陳 情	北 陸 地 建 局 長 他	市長、関係市町村長他
12. 2	陳 情	建設省・大蔵省	市長、関係市町村長他
53. 2.21	要 請	聖籠町長・議会	市長、議会特別委員会
2.27	陳 情	建設省、地元国會議員	市長、町長、両市町議會議長、特別委員
7. 6	陳 情	県 知 事 他	市 長 他
7.22	新発田・聖籠両市 町 議 会 合 同 会 議		市長、町長、両市町議會議長、特別委員県
8.11	放 水 路 促 進 大 会		県知事、国県會議員
9. 2	新発田市・聖籠町議会 新発田川放水路促進協 議会		関係5市町村長、議会、住民2000人 町長、両市町議会、特別委員会
10.26	陳 情、署名簿提出	建設省・大蔵省 地 元 国 会 議 員	関係5市町村長、常任委員 署名数38,000 余名
12. 5	陳 情、署名簿提出	県 知 事	〃
54. 1.29	別 行 説 明 会		県土木、町長、議会、別行部落
2.15	太 夫 興 野 説 明 会		県土木、町長、議会、別行部落
3.29	陳 情	建 設 省	市長、町長、両市町議会他

⑦ 陳 情 書

昭和53年2月27日

建設大臣
大蔵大臣 殿
県 知 事

新潟県新発田市長 富 樫 会
新潟県北蒲原郡聖籠町長 平 野 力太郎
新潟県新発田市議会議員 佐 藤 精 一
新潟県北蒲原郡聖籠町議会議員 渡 辺 権 一

新発田川放水路建設促進に関する陳情

1. 陳情の要旨

- (1) 新発田川放水路の早期建設をはかるため昭和53年度事業費を大巾に増額して頂きたい。
- (2) 上流部の局部改修を早急に完成して頂きたい。
- (3) 当面の水害対策として現川の河積を拡大し、流量の増大をはかる措置を講じて頂きたい。

2. 陳情の理由

新発田川、太田川流域は昭和41・42年の連年集中豪雨による大水害をはじめ幾多の水害を受け、その対策については累年ご要望申しあげてきたところであります。

ご当局におかれては地域の要望に応えられ、水害常襲地帯の解消をはかるため、新発田川放水路の建設を計画され、昭和51年度から上流の佐々木地区から用地買収に着手し、52年度には、下流聖籠町地域関係者の理解と協力を得て、一部二本松地区の地形測量を実施いたしております。また、上流の局部改修についても昭和48年度から用地買収に着手いたしているところであります。

しかしながら、この放水路建設予定地の大半及び局部改修部分の約半分は聖籠町の行政区域であり、同町は新潟東港あるいは、新々バイパス等の大規模プロジェクトによる開発がすすめられておりますため、当該地域では今後の営農計画、生活設計等、多くの悩みをかかえている現状であります。一刻も早く地域から水害をなくしようということについては、地域住民の総意であります。

また、国の政策である水田利用再編事業についても、湿田地帯を多く抱えているこの地域では真剣に取り組んでいるところであります。放水路が建設されて、湿田が乾田化すれば畑地に転換することも可能となり、より一層国の施策に即応できる地盤状況となりうるものと思われれます。

つきましては、ご当局におかれても、財政ご多端のおりとは存じますが、何とぞ当地域の実情をご賢察くだされて、新発田川放水路の早期建設ならびに、上流部局部改修事業の早期完成のために、昭和53年度事業費の大巾増額について、格別のご理解と、特段のご高配を賜わり、併せて当面の水害対策として、現川の河積拡大について、ご配慮を頂きたく、関係市長、町長ならびに関係議会議員連署のうえ、陳情する次第でございます。

⑤ 陳 情 書

昭和54年3月29日

建設大臣
大蔵大臣 殿
県 知 事

新潟県新発田市市長 近 寅 彦
新潟県北蒲原郡聖籠町長 平 野 力太郎
新潟県新発田市議会議員 佐 藤 精 一
新潟県北蒲原郡聖籠町議会議員 渡 辺 権 一

新発田川放水路建設促進に関する陳情

1. 陳情の要旨

- (1) 新発田川放水路の建設促進をはかるため、昭和54年度事業費を大巾に増額していただきたい。
- (2) 上流部の局部改修を早急に完成していただきたい。
- (3) 当面の水害対策として、現川の河積を拡大し流量の増大をはかる措置を講じていただきたい。

2. 陳情の理由

新発田川太田川流域は、昭和41年、42年の連年集中豪雨による大水害をはじめ幾多の水害を受け、その対策については累年ご要望申しあげてきたところであります。

ご当局におかれては地域の要望に応えられ、水害常襲地帯の解消をはかるため、新発田川放水路の建設を計画され、昭和51年度から上流の佐々木地区から用地買収に着手し、52年度には、下流聖籠町地域関係者の理解と協力を得て一部二本松地区の地形測量を実施いたしたところであります。

しかしながらこの放水路建設予定地の大半は聖籠町の行政区域であり、同町は新潟東港あるいは「新々パイパス等の大規模プロジェクトによる開発がすすめられておりますため、当該地域では、今後の営農計画、生活設計等、多くの悩みを抱えているところであります。

しかしながら昨年の6.26集中豪雨によって、7.17・8.28水害を上回る程の大被害を受けたため、この水害を契機に関係地域では、再び水害を起すまいという気運がとみに高まり、関係部落では放水路建設計画の説明会を開催し関係者の理解と協力を得ながら地元の協力体制を鋭意整えているところであります。

つきましては、ご当局におかれましても、財政ご多端のおりとは存じますが、何とぞ当地域の実情をご賢察くだされ、新発田川放水路の早期建設ならびに上流部局部改修事業の早期完成のために昭和54年度事業費の大巾増額について、格別のご理解と特段のご高配を賜わり、併せて当面の水害対策として現川の河積拡大について、ご配慮を頂きたく、関係市長・町長ならびに関係議会議員連署のうえ、陳情する次第でございます。